

昭和4年9月、先生は不幸にも心臓病の発作におそわれた。渡英はおろか、研究も断念してひたすら病を養う身となつた。小康を得ると、居を植物園の近所に移し、翌年の半ば頃から講義をつづけ、かたわら植物分類学の著述に苦心するようになった。私はよく、講義や著作に必要な図書資料をもつて、病室と教室の間を往復したものだが、万年床の上に小机をおき原稿をかいている先生の姿を見ると、まさに学問の鬼であつた。「気分がよい時に仕事をするのだ」というが、仕事をするために身心をせめさいなんであるようにみえた。しかし、植物分類学第一巻裸子植物篇はついに完成し、昭和8年6月出版された。日本におけるこの種の第一の名著といつても過言ではない。つづいて第二巻の出版をわれわれは期待したが、遂に再び立つことができず、昭和9年1月13日、60年の生涯を閉じてしまつた。思えば、病中の過労が先生の死を早めたことは明かである。そうせざるを得なかつた先生の胸中を察すると暗然たらざるを得ない。

先生がこの著述を計画したとき、第二巻被子植物篇、第三巻羊歯植物篇、第四巻蘚苔植物篇第、五巻藻菌及び下等植物篇の大抱負だつたが、すでに身体の限界をさとり「もし自分が途中で斃れることがあつたら、あとを引受けて完成して貰いたい」と本田博士に依頼されたときいている。幸い、第二巻の原稿はほとんど完成していたので、本田博士の手で整備され、総論として昭和10年2月に世にでた。これは先生の遺志をつぐ唯一のものである。先生が没してから、この1月13日で満26年になる。その間、私は何をしたというのだろうか。顧みて汚泥たるものがある。

□ **B. Hayata : An interpretation of Goethe's *Blatt* in his "Metamorphose der Pflanzen", as an explanation of the principle of natural classification**
(Icon. Pl. Formos. 10: 75~95, 1921) よりの抄出

Since my return from Tonkin (Indo-China), in August 1917, I have been reflecting on the principle of natural classification.....Current opinion demands that natural classification be based on the evolution theory,.....I have come to entertain strong doubts as to the correctness of this principle, so generally accepted by modern systematizers; for my twenty years' experience in systematic botany has steadily led me into quite a different channel of thought. This I now venture to make public, although I am aware that it will meet with a great deal of opposition..... When we interpret, on the contrary, the *Blatt* or *Urpflanze* as a real entity, then the changes of organs or species are different in their courses according to the time and circumstances, and therefore are indeterminable and dydamic.the view of manifold interrelation of organs or species,..... The principle of natural classification should be founded.....on the participation theory, the dynamic system, and the manifold views of the mutability. (津山 尚)